

研究の必要性

循環的経済観と宗教哲学

大巡思想を中心に見た現代経済と宗教の統合的解釈

目次

- 1 研究背景および問題意識
- 2 現代経済問題の構造
- 3 宗教と経済の歴史的関係
- 4 循環的経済観の概念
- 5 大巡思想の経済観
- 6 研究の意義および結論
- 7 参考文献

研究背景および問題意識

シーシュポスの神話から着想を得た現代人の経済的・精神的循環問題

- 極度に発達した物質文明の中でも満足知らない現代人の精神的苦痛
絶対者の助けなしには山頂に岩を載せられないシーシュポスのようなジレンマ
- 自由至上主義、共同体主義、社会契約主義、功利主義の限界
既存の経済哲学の枠を抜け出せない循環の問題
- 宗教と経済、倫理の関係回復の必要性
「宗教が倫理を発展させ、倫理が経済を発展させる宗教と経済の好循環」の模索

「ウェーバーが述べたように、宗教は時代の経済的危機を克服してきた。」

現代経済問題の構造

現代経済問題の核心的軸は、個人-共同体、倫理-経済という二つの軸に沿って4つに区分されます。

個人-経済

経済動機の崩壊の問題

物質的豊かさにもかかわらず経済活動の意味と動機が喪失される現象

個人-倫理

経済倫理の消失

個人の経済活動が倫理的判断から分離され、道徳的空白状態に置かれる現象

共同体-経済

資本主義-共産主義体制の問題

理念的対立を超えた新たな経済体制への模索の必要性の台頭

共同体-倫理

環境危機の問題

経済発展と環境保全の間の葛藤と持続可能な発展モデルの必要性

「インターネットが世界を万人が互いに共感する共感の時代にしたが、むしろ技術の発達により一つのウイルスが世界全体のネットワークを崩壊させる今日、循環の麻痺による経済危機は過去の経済危機とは比較にならないほど、その規模と余波が日ごとに深刻化している。」

宗教と経済の歴史的関係

宗教が経済発展に及ぼした影響および循環メカニズム

マックス・ウェーバー

プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神：宗教が資本主義発展の原動力

直線的合理化による「鉄の檻」概念の提示

カール・マルクス

「宗教は人民の阿片」— 宗教を経済構造の上部構造と認識

宗教と経済の関係を一方向的に解釈

フリードリヒ・ニーチェ

「永劫回帰」概念と「情緒の経済」を通じた循環的世界観

「神は死んだ」から循環的神観への転換を示唆

東西の宗教と経済倫理の相互作用

- 儒教：倫理を優先する共同体的経済観
「経済（経済）」は「経世済民（経世済民）」の略語
- 仏教：現実超越と倫理的経済の調和
分配と生産の均衡を強調
- 道教：自由主義的経済観と自然循環
個人と全体の有機的関係を重視
- 西教：個人と共同体、理性と信仰の葛藤
救済予定説と資本主義の精神の関係

「世界宗教は経済がもたらした不平等に対する正当化機能として出現した」— マックス・ウェーバー

循環的經濟觀の概念

循環（循環）の意味と現代的な経済への適用

- ポストモダンのな解決方法

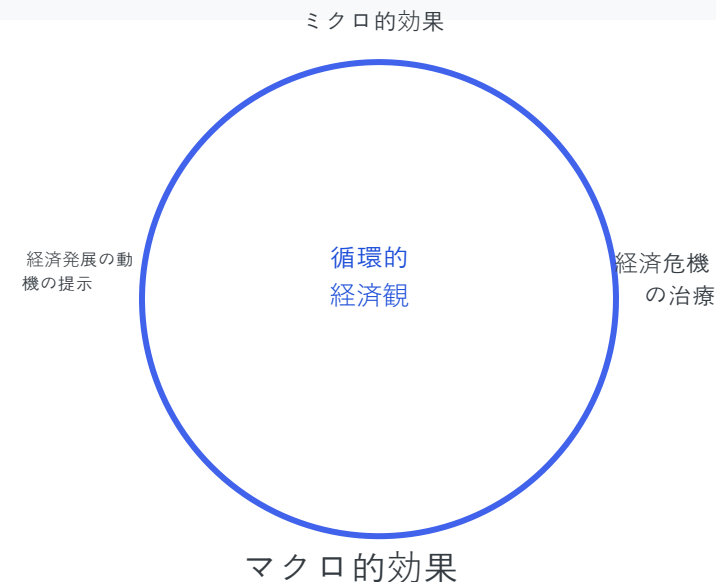
互いに相反する直線運動を和解させる一段高い次元の運動

- 儒・仏・道と西教の経済倫理の循環原理

各宗教の経済思想の長所を発展させた統合的アプローチ

- 循環の科学的正当性

アインシュタインが円を通じてニュートン物理学を相対化したように、自然科学において証明された原理



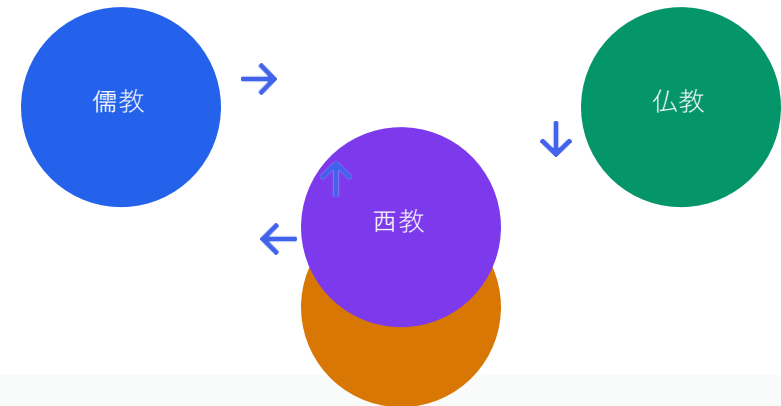
「金は循環の理により生じて用いる物である」

— 大巡思想

大巡思想の経済観

「金は循環の理により生じて用いる物である」

- 循環論的分配倫理
万物が天命（天命）によって生じ、各自の必要に応じて用いられる原理
- 儒仏道と西教の内部循環
大巡思想に現れた西洋思想の東洋的淵源と統合
- 個人-共同体、経済-倫理の循環関係
現代経済問題を解決する代案的経済観



「経済と倫理が循環するだけでなく、個人と共同体もまた循環関係にあるため、個人-共同体、経済-倫理という二つの軸から生じた経済問題はすべて循環的方法によって解決できる。」

研究の意義および結論

循環に基づく経済と倫理、宗教の新たな統合的解釈

✓ 儒仏道と西教の経済思想の統合

個人-共同体、経済-倫理の循環的關係の樹立を通じた現代経済問題解決の可能性

✓ 大巡思想の循環的経済観

「金は循環の理により生じて用いる物である」という観点を通じて分配倫理と経済循環の原理を提示

✓ 現代経済危機の克服のための示唆点

経済動機の崩壊、経済倫理の消失、体制問題、環境危機など四つの問題に対する統合的解法の提示

今後の研究方向

循環的経済観の実践方策と現代社会への適用モ

デルの開発 宗教思想の経済的含意を実証的に

検証する研究が必要

儒仏道と西教の経済思想を総合した大巡思想独自の独創的経済観に関する研究の発展

参考文献

単行本
マックス・ウェーバー（2008）『世界宗教と経済倫理』、『マックス・ウェーバー宗教社会学選集』、ナナム。マックス・ウェーバー（2010）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、文芸出版社。兪錫春（1992）『マックス・ウェーバーと東洋社会』、ナナム。
ドミニク・シュナペール、金教信訳（2001）『労働の終焉に抗して』、東文選。リチャード・ニスベット、崔仁哲訳（2004）『思考の地図』、金泳社。
ドミニク・モイジ（2010）『感情の地政学』、ランダムハウス。申恩卿（1999）『風流（東アジア美学の根源）』、宝庫社。金徳三（2002）『道教の起源』、時間の糸車。
論文
尹元根（2000）「ドイツ知的伝統の神秘的 세계 観とウェーバーの共同体志向性」、『韓国社会学会』Vol.34。金相煥（2002）「貨幣、言語、無意識」、『哲学思想』Vol.56、哲学研究会。